

事例 2 概略 器楽(鍵盤ハーモニカ)の学習における知識・技能の評価

第2学年A表現(2) 器楽ア(ア)(イ)、器楽イ(イ)(イ)(ウ)、(3)音楽づくりア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)、B鑑賞ア、イ
 児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素【音色、速度、旋律、強弱】

1 題材名 ドレミであそぼう (9時間扱い)

2 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わり気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な互いの歌声や楽器の音、伴奏を聴いて声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能や即興的に音を選んだりつなげたりして旋律をつくる技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) 旋律の音の動き、音の重なり、強弱、音楽の縦と横の関係、音の重なりが生み出す曲や演奏の楽しさを見いだしながら聴いたり、旋律の音の動きを生かしてどのように歌ったり演奏したり旋律をつくったりするかについて思いをもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 旋律の音の動きや音の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽を聴いたり表現したりする学習に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

3 教材について

- (1) 「ドレミのうた」 (ペギー葉山日本語詞／リチャードロジャース作曲)
- (2) 「かっこう」 (小林純一日本語詞／ドイツ民謡)
- (3) 「かえるのがっしょう」 (岡本敏明日本語詞／ドイツ民謡)
- (4) 「ぷっかりくじら」 (高木あきこ作詞／長谷部匡俊作曲)

4 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| ① 知 曲想と音楽の構造との関わり気付いている。(鑑賞) ② 技 思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や楽器の音、伴奏を聴いて声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能を身に付けて演奏している。(歌唱・器楽) ③ 知技 思いに合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだり、つなげたりして旋律をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり) | 思 ①旋律の音の動き、リズム、音の重なり、強弱、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞) 思 ②旋律の音の動き、音の長さ、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じとりながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。(器楽) 思 ③旋律の音の動き、音の重なり、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。(音楽づくり) | 態 ①旋律の音の動きの特徴と曲想との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しんで主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。(鑑賞) 態 ②旋律の音の動きや音の重なり、音の長さに興味をもち、音楽活動を楽しんで主体的・協働的に歌ったり鍵盤ハーモニカを演奏したり旋律をつくったりする学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽・音楽づくり) |

5 指導と評価の計画（全9時間のうち、器楽として取り扱うのは3～6時）

| 時 | ◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 ◎指導上の留意点 | 知・技 | 思 | 態 | |
|---|---|-----|---|---|---|
| 1次◆曲の楽しさを見いだしながら聴いたり歌ったりして、旋律の音の動きと曲想との関わりに気付く。 | | | | | |
| 1 | ○音の高さの違いや旋律の音の動きの特徴を感じ取る。 | ↓ | ↓ | ① | |
| 2 | ○旋律の音の動きと曲想との関わりに気付く。 | | ① | | |
| 2次◆音の高さに気を付けながら歌ったり、演奏したりする。 | | | | | |
| 3 | ○音の高さに気を付けて歌う。 ・「かっこう」を聴く。 ・歌詞や階名で歌う。 ・音の高さや音の長さ、拍子を確認する。 ◎教科書をICT機器で拡大表示して、音の高さや長さに意識を向けられるようにする。 ◎拡大して掲示することで、発声や姿勢に気を付けさせることが出来る。 | ↓ | ↓ | | |
| 4 | ○音の高さや息の使い方に気を付けて楽器を演奏する。 ・指番号で歌ったり、指を動かしたりしながら階名で歌ったりする。 ・「かっこう」を鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・息の使い方を工夫して演奏する。 ◎範唱動画で運指や演奏の仕方を示し、技能の習得を支援するようにする。 | | ↓ | ② | |
| 5 | ○音の高さや音の重なりに気を付けて歌う。 ・「かえるのがっしょう」を聴く。 ・歌詞や階名で歌う。 ・輪唱する。 ◎音の高さや音の重なり、休符に気を付けて歌えるようにする。 ◎教科書をICT機器で拡大表示して、音の高さや長さに意識を向けられるようにする。 ◎教師と児童、児童と児童の組み合わせを変えて、何度も輪唱に取り組めるようにする。 | | | | |
| 6 本 時 | ○音の高さを感じ取る。 ・旋律の音の動きに合わせて体を動かしながら聴く。 ・「かえるのがっしょう」を斉唱や交互唱、輪唱で歌う。 ・「かえるのがっしょう」の階名を確認する。 ○演奏の仕方に気を付けて演奏する。 ・ポジション移動の仕方を確認する。 ・範奏動画を見て運指を確認する。 ◎範奏動画を大型モニターに投影できるようにしておく。 ◎伴奏音源の速さを調節する等して児童の技能の定着をスモールステップで図れるようにする。 ○音の重なりに気を付けて演奏する。 ・「かえるのがっしょう」を一人で演奏したり、輪奏したりする。 ◎新しく学習する指のポジション移動に気を付けさせるようにする。 | | ↓ | | ↓ |
| 3次◆曲の特徴を生かして、歌声と楽器の音色を重ねて演奏したり、音のつなぎ方に思いをもって旋律をつくったりする。 | | | | | |
| 7 | ○リズムに気を付けて歌ったり、演奏したりする。 | | ↓ | ↓ | ↓ |
| 8 | ○曲の特徴を生かして、歌と楽器を合わせて表現する。 | ②技 | ↓ | ↓ | |
| 9 | ○音のつなぎ方に思いをもって旋律をつくる。 | ③知技 | ③ | ② | |